

※今年度の本園の保育・教育全般を総合的に評価し、次年度の保育計画に生かせる方向で記入してください。

[記入方法]

・A、B、C、の3段階評価です。該当する欄に○をつけてください。

・項目ごとに、意見・改善策を記述してください。

項目 保育理念「生きる力・強い心をもつ心を地域とともに育てる」
保育目標「じょうぶな子ども・明るい子ども・元気な子ども・考える子ども」

A: 十分理解している。

(できている)

B: 理解している。

C: 努力が必要。

◎保育の計画の編成と実施に関する評価

項目	内容	評価			意見・改善策
		A	B	C	
Ⅰ 保育理念について	保育所保育指針の趣旨について理解している。	3	16		・自分なりに理解しているつもりですが受け止め方の違いが多々あるので理解不足を感じているのでこれからもっと勉強していかなければと反省しています。・保育理念、目標、保育過程のもとクラスで話し合い理解し合い、指導計画を立てていくようにふり返りを大切にしていた。・これから新人が増えていく中、職員全体で保育理念、目標、過程の読み合わせ共通理解していきたい。・まだまだ勉強不足である。次年度に向け保育指針を見直し計画していく。・産休などで職員が手薄になることもあったが、保育補助や職員同士で声を掛け合い協力できた。・保育を通して、地域貢献をするという心を忘れずに更なる保育園の役割を認識していきたいと思っています。
	自園の保育理念・目標について理解し、職員会議や研修等で説明ができる。	2	17		
	保育所保育指針と保育理念・保育目標の関係を理解し、保育課程を作成している。	7	11	1	
	保育の目標を達成するために「ねらい」があり「ねらい」をより具体的ににしたものが指導計画であり、保育の内容であることを理解している。	10	9		
	保育課程及び指導計画は全職員で検討し、かつ共通理解をはかっている。	12	6	1	
Ⅱ 保育について	保育所保育指針保育の原理「保育の目標」ア～イに沿って保育を行っている。(別紙添付)	15	4		・めい想は朝の活動後の設定保育に入る前が良いと思う(気持ちを落ち着けてから集中できるように)・1歳児クラスは養護を主とした子どもたち一人ひとりの個性、月齢を大切に接していく基礎的生活習慣を保護者が一緒になって身に付けていくことの大切なことと感じ日々接しています。・1日の流れ、園全体でラジオ体操・保育目標、フラッシュカード、めい想と子どもたち自身に身につけていく姿がとても良い。・子どもの基本的な遊び、学び、育つは最善の利益を保障していく営みなので養護と教育を一体化し、サービスではなく保育者や保護者、地域がみんなで支えていくものだと思います。職員間で学び、共通理解を深めさらに保育の質を高めていきたい。・子ども一人ひとりの個性を慎重して愛情を持って接していくことで子ども達との信頼関係が十分にとれた。子ども達の長所や短所をみきわめていく事で子どもの苦手な分野を克服していけるようそばで見守り配慮する事で喜びを感じる事ができた。
	保育の目標を達成するために、保育所保育指針「保育の方法」ア～カに留意し保育を行っている。(別紙添付)	12	5	1	
	人、物、場などの環境が相互に関連し合い、子どもの生活の場が豊かになるよう保育所保育指針「保育の環境」ア～エに留意し保育を行っている。	13	6		
	保育所の特性である「養護及び教育が一体的に展開されることを理解し、留意している。	11	8		
日時程	一日の流れ(ディリープログラム等)は現行でよいか	14	5		
行事について	(1) 行事の種類や実施回数は適切か	14	5		・今現在もやっていると思うのですが、行事のねらいと内容、その意味を事前に子ども達や保護者に伝えておく事で参加する父兄や子供達もよりいっそう楽しんでいえるのでは?・行事に関してはマンネリ化している面もあるのでさらに演出のアイデアを見直していきたい。・お楽しみ会を誕生会に変更し、特別な日として経験させたい。前回の行事に対する意見があった事で年長のハードな活動が軽減されたように感じた。行事後の改善点が良かった点をまとめることによりパートナーの先生の意見等も聞けて自分自身への改善点もみつける事ができた。
	(2) 行事のねらいを計画や実施に十分生かしているか	12	7		
	(3) 乳幼児の活動範囲を明確にし、自主適・実践的な活動にしているか	14	5		
	(4) 計画・実施・評価・改善(P・D・C・Aサイクル)の体制をとっているか	11	7	1	
	(5) 保護者の願いや意見を取り入れているか	13	5	1	

◎保育の計画の編成と実施を支える諸条件に関する評価

項目	内容	評価			意見・改善策		
		A	B	C			
経営・組織	分掌・体制	(1)職務内容が明確で、協働できる体制になっているか	10	9		・1階、2階の副主任がいる事で職員の体制が整い、まとまってきたように思います。保育補助の方の協力もありがたいと思う。・役割分担することで協働体制は出来ているが、思うように時間にゆとりがなく時間外に行くこともあるので、昼寝時間に活動できるように見直す。	
		(2)職員の配置は適材・適所か。	9	9	1		
		(3)係や仕事の分担・割り当ては適切か	7	12			
	運営	(1)各種会議を適切かつ効率的に進めているか	11	7	1		
		(2)職員相互がそれぞれ全体的に立場を理解し、協力や助言を惜しむことなく施設運営に関わっているか。	12	6	1		
		(3)打合せ回数、時間、内容は適切か	3	13	3		
	年齢別・クラス経営	(1)年齢別・クラス目標は、保育課程や保育目標に基づいて設定しているか	16	3			・異年齢交流では、年長クラスを見て、真似て園児たちも学ぶことが多い。特に散歩では横断歩道を手を挙げて渡る、車が来たら壁に寄り、動かない等、成長が見られた。これからの活動にも取り入れたい。・各クラス年齢にあった計画が立てられていると思う。・クラス目標に基づいて自立心が持てるよう見守ろうとしているが、常に声掛けしてしまっている事があった。・ムリ、ムダ、ムラなく保育が展開されている。一人の子どもに対して、他の保育者もその子の特徴を理解しているので相談し合うことができています。
		(2)年齢別・クラス目標は、乳幼児の実態に即して設定しているか	17	2			
		(3)同年齢及び異年齢間の効果的な活動の充実を図っているか	15	4			
		(4)意義や趣旨を理解したチーム保育を行っているか	13	5	1		
		(5)評価、資料(諸記録)を集積し、保育の見直しにいかしているか	11	6	2		
	保健・安全指導	(1)保育所は、子ども一人一人と集団全体の健康及び安全の確保に努めなければならないことを理解している。	18	1			
		(2)避難訓練・交通安全指導を計画に基づいて適切に実施しているか。	19				
		(3)健康・安全な生活に必要な習慣や態度育成のため、家庭への啓発を行っているか。	15	3	1		
		(4)乳幼児の安全確保のため、家庭・地域社会・関係機関等と連携を図っているか。	15	4			
研究・研修	所内研修	(1)研究主題は、保育目標の具現化に繋がるものであるか	8	7		・研修、研究で職員全体で共通理解できるよう細かく話し合いをしていきたい。・研修を受けた職員の報告を聞く事で自分自身の保育の参考にもなっている。・現状通りでいいと思います。・研修を通してスキルUPできている。終えての行動声掛けは成長できうれしい。・アレルギー児がいるのでアレルギーの研修があれば参加したいと思います。・県内外の研修は保育に反映しているので参加させて頂き感謝しています。・今回は絵本についての研修に行かせてもらい子ども達の興味を引くような虫の話などを聞かせてもらい、その内容を子どもたちに話す事で喜んで聞いてもらえることができた。	
		(2)研究の成果を日常の保育に生かし、乳幼児の育ちに反映させているか	11	5			
		(3)研究の実践による乳幼児理解が深まりをみせているか。	15	3	1		
	所外	(1)研修の計画・運営は個別に策定するなど職員ひとりひとりの育成に向けた取組となっているか	15	4			
研究研修		5					

項目	内容	評価			意見・改善策	
		A	B	C		
情報 てに つ	(1)乳幼児や保護者に関する個人情報を適正に取り扱っているか。	17	2		・毎朝、夕の安全点検や主任や保育補助の日々の清掃や点検のおかげで子ども達も怪我なく充実に楽しく活動に参加できている。ありがたいです。適正に取り扱うことを努めている。・文書の発送は早めに行う見当が必要。・係による安全点検や理事長の協力のもと早遅番職員の点検実施している。・日誌や児童表などきちんと片付け大切に扱っています。	
	(2)公文書收受、発送、処理を適切に行っているか。	18	1			
施設 ・ 整備	(1)施設内外・設備の安全点検を計画的に行っているか。	15	2	2	・不審者対策としてさすまたが常備されているが、新しい職員もいるので定期的に使用方法を確認してもいいのでは。・掲示板は子どもたちの様子が分かって良い。・子ども達が自由に選べるよう遊具や用具は手の届く場所へ配置している。・遊具に関しては朝・夕の点検があるので毎日安心して遊べるがアンパンマン号は古すぎて腐食が目立つのでいい方法がないか考える。・固定番になり、遊具の点検などしなくなって、私自身できていないと思いいこの評価にしています。	
	(2)遊具・用具等を、活用しやすいように整理・保管しているか。	13	6			
	(3)不審者等に対応する周な配慮を行っているか。	11	7	1		
	(4)掲示板、掲示場所等を適切かつ効果的に活用しているか。	16	2	1		
出納・経理	(1)会計を適正かつ適切に処理しているか。	5			・行事に合わせた施設利用計画になりがちなので、もっと友好的に活動計画に取り組みで行けたらと思う。・子どもセンターなど利用する際に連絡を入れ連携を十分に取れている。・他の人からも情報が見れるのでとても良いと思う。・「子育てについて」保育時間を利用して(参観日や土曜保育など)園長講話や各クラス担任から成長報告会を開催して、日常の子育てを確認したり、反省したり、改善できる機会を用意し、親子ともに健全に育ち合える場に出れば良いと思います。(年々若いお母さんが増えているので..)	
開 か れ た 保 育 所 づ く り	施設 間 交 流 ・ 連 携	(1)他施設等との年間講習計画は、保育目標や課題に添ったものになっているか。	6	10	2	・まずく祭りや十五夜祝い等、地域行事に参加し交流もできている。・保育参観、ムービー作り、夕涼み会、ミニデイ(公民館)、児童センター、ハロウィンと開かれた保育園で地域の方との避難訓練と行われとても良い連携、交流だと思いいます。
		(2)指導者同士が打合せや事前研修・合同研修を行い、互いの保育・教育に対する理解を深め、援助について共通理解をはかっているか。	6	9	3	
		(3)参観や保育・授業等に参加するなどして、幼稚園・小学校の環境・教育を理解しているか。	2	8	8	
		(5)日常的に情報を交換し、それを交流活動に生かしているか。	8	6	3	
	家 庭 ・ 地 域 社 会 と の 連 携	(1)保護者参観日等を設定しているか	16	3		
		(2)保護者を含む地域の人材活用の時期・内容は適切か	12	7		
		(3)地域の行事に積極的に参加し、地域の文化や生活に触れる取組があるか	11	8		

項目	内容	評価			意見・改善策		
		A	B	C			
開かれた保育所づくり	子育て支援の推進	(1)地域の子育てセンターとして、園庭開放や保育の相談等に取り組んでいるか	16	2	1	・園長講話や看護師相談等を月1回と取り組んでいて、講話を聴くことで親子が笑って安心して帰る姿がよく見られる。・利用している方が知り合いを誘い、センターが賑わっているのもとても良い交流の場となっている。・園内研修などで支援センターの様子を聞く機会があってもいいのでは。・保護者向けの講演があってもいいかなって思う。・支援センターについて利用者も増え、日々楽しく過ごしているのを感じられ、うれしく思う。・現状通りでいいと思います。	
		(2)地域に済む子どもどうし、あるいは親子と一緒に遊ぶことができる場の設定を行っているか	15	4			
		(3)子育てについて」など、保護者を対象とした学習・研修の機会を設定しているか	5	8	3		
		(4)職員による育児にかかる「子育て相談」は充実しているか	10	6	1		
		(5)医療機関、児童相談所等の専門機関と連携を図り、保護者にとって必要な情報を提供しているか	9	8	2		
	情報の発信	(1)園だより、クラス通信、ホームページ等で施設の情報を発信しているか。	18	1			・他の人からも情報が見られるのでとても良いと思う。・HPは一日でも早く発信できるよう努力している。・小学校に対しては周知が不十分なので情報の発信に努めます。・各クラスでクラスだよりが配布され、園での子どもの様子などが見られるので親にとって良いと思う。
		(2)行事や子育て支援事業等を、地域自治会や児童施設、小学校に対して周知しているか。	8	9	2		
	外部評価	(1)第三者評価を導入し、施設運営に反映している。	5	1	8		・第三者評価についてもっと詳しく知りたい。・第三者評価と聞くと正直不安もあるが、第三者評価の効果を見ると、自分たちでは気づかなかった改善点を知る事ができたり、職員の自覚と改善意欲の促進、利用者や地域からの信頼を更に得ることができるので受審してみたいという気持ちになった。

項目 ◎ 保育の計画の編成と実施の関する評価の別紙添付の参考資料

3 保育原理

(1)保育目標

ア 保育所は、子どもが生涯にわたる人間形成にとって極めて重要な時期に、その生活時間の大半を過ごす場である。このため、保育所の保育は、子どもが現在を最も良く生き、望ましい未来をつくり出す力の基礎を培うために、次の目標を目指して行わなければならない。

(ア)十分に養護の行き届いた環境の下に、くつろいだ雰囲気の中で子どもの様々な欲求を満ちし、生命の保持及び情緒の安定を図ること。

(イ)健康、安全など生活に必要な基本的な習慣や態度を養い、心身の健康の基礎を培うこと。

(ウ)人との関わりの中で、人に対する愛情と信頼感、そして人権を大切にすることを育てるとともに、自主、自立及び協調の態度を養い、道徳性の芽生えを培うこと。

(エ)生命、自然及び社会の事象についての興味や関心を育て、それらに対する豊かな心情や思考力の芽生えを培うこと。

(オ)生活の中で、言葉への興味や関心を育て、話したり、聞いたり、相手の話を理解しようとするなど、言葉の豊かさを養うこと。

(カ)様々な体験を通して、豊かな感性や表現力を育み、創造性の芽生えを培うこと。

イ 保育所は、入所する子どもの保護者に対し、その意向を受け止め、子どもと保護者の安定した関係に配慮し、保育所の特性や保育士等の専門性をいかして、その援助に当たらなければならない。

(3)保育の環境

保育の環境には、保育士や子どもなどの人的環境、施設や遊具などの物的環境、更には自然や社会の事象などがある。保育所は、こうした人、物、場などの環境が相互に関連し合い、子どもの生活が豊かなものとなるよう、次の事項に留意しつつ、計画的に環境を構成し、工夫して保育しなければならない。

ア 子ども自らが環境に関わり、自発的に活動し、様々な経験を積んでいけるよう配慮すること。

イ 子どもの活動が豊かに展開されるよう、保育所の設備や環境を整え、保育所の保健的環境や安全の確保などに努めること。

ウ 保育室は、温かな親しみとくつろぎの場となるとともに、生き生きと活動できる場となるように配慮すること。

エ 子どもが人と関わる力を育てていくため、子ども自らが周囲の子どもや大人と関わっていくことができる環境を整えること。

保育内容等の自己評価

(1) 保育士等の自己評価

ア 保育士等は、保育の計画や保育の記録を通して、自らの保育実践を振り返り、自己評価することを通して、その専門性の向上や保育実践の改善に努めなければならない。

イ 保育士等による自己評価に当たっては、次の事項に留意しなければならない。

(ア) 子どもの活動内容やその結果だけでなく、子どもの心の育ちや意欲、取り組む過程などに十分配慮すること。

(イ) 自らの保育実践の振り返りや職員相互の話し合い等を通じて、専門性の向上及び保育の質の向上のための課題を明確にするとともに、保育所全体の保育の内容に関する認識を深めること。

(2) 保育所の自己評価

ア 保育所は、保育の質の向上を図るため、保育課程及び指導計画の展開や保育士等の自己評価を踏まえ、当該保育所の保育の内容等について、自ら評価を行い、その結果を公表するよう努めなければならない。

イ 保育所の自己評価を行うに当たっては、次の事項に留意しなければならない。

(ア) 地域の実情や保育所の実態に即して、適切に評価の観点や項目等を設定し、全職員による共通理解をもって取り組むとともに、評価の結果を踏まえ、当該保育所の保育の内容等の改善を図ること。

(イ) 児童福祉施設最低基準第36条の趣旨を踏まえ、保育の内容等の評価に関し、保護者及び地域住民等の意見を聞くことが望ましいこと。

成功するためには3つの目が必要

『鳥の目』・・・勉強でも仕事でも、いきなり細かいところから着手するのは、賢い方法ではなく、自分の現在地が把握できないのでは、頭の整理がしにくくなり、大きなストレスの原因になります。「鳥の目」で、「高いところから全体像を把握する」ということです。鳥になり、高い位置から下を見て、全体像を把握することから始めます。勉強であれば「目次」を見ます。建築であれば「設計書」を見ます。仕事であれば「目的」や「段階」などを知ります。難しく思えることも、全体の大まかな成り立ちや仕組みが分かると、いくぶん取り組みやすくなります。

『虫の目』・・・虫は、小さい生き物です。地に面した低い位置にいるからこそ、上からは見えなかったことが見えてくるようになります。ターゲットを絞れば、虫のように「狭く深く」を心がけ徹底します。

『魚の目』魚は、目には見えない川の流れを体全体で感じ取っています。あなたは魚の目を持ち、どの方向へ流れていくのかを読み取ります。

勉強にも仕事にも流れがあります。歴史の勉強も流れを理解すれば、覚えやすく忘れにくくなります。仕事でも流れを理解すれば、取り組みやすく忘れにくくなります。

この3つの目を持って、全体の把握は、鳥の目。部分の把握は、虫の目。流れの把握は、魚の目。